

千葉敦子、笹森佳子、瓜田学  
青森県立保健大学

## 1. はじめに

鶴田町は西北五地区に位置し、人口 14,013 人で主な産業は農業の町である。平均寿命は全国平均に比べて低く、特に男性は県平均を下回っている。また、運動習慣がある人が少ない、喫煙者が多い、子どもの肥満出現率が高い、など生活習慣に関する課題が多いことから、町民に対する健康知識の普及と健康増進を図るため、保健・医療・福祉祭「いのちのまつり」を年に 1 回開催している。本学では、教員が地域貢献の一環として個人ベースで「いのちのまつり」に過去 6 年間関与してきたが、今回、公募型地域連携事業に申請し承認されたため、以下の通り事業の概要について報告する。

## 2. 目的

本事業の目的は、鶴田町民に対する健康保持増進のための専門知識の提供（健康知識の普及啓発）である。鶴田町の保健・医療・福祉祭である「いのちのまつり」に出展し、出展ブースにおいて、町民を対象に健康クイズを行うことで健康知識の普及啓発を目指す。これにより、鶴田町住民の健康保持増進に資するとともに、地域貢献に寄与することを目的とする。

## 3. 活動の方法および結果

鶴田町役場健康保険課からの要望により、鶴田町保健・医療・福祉祭「いのちのまつり」に出展した。開催日時は平成 25 年 11 月 16 日（土）で、場所は鶴田町保健福祉センター鶴遊館であった。出展名は「こんにちは保健大学です」とし、出展の内容は健康クイズとした。健康クイズは、子供用、運動編（初級・中級・上級）、栄養編（初級・中級・上級）の計 7 種類を用意し、来場した住民の方に選択してもらう方式で実施した。本学からは看護学科教員 3 名が参加し健康クイズを担当した。保健大学のブースを訪れ、健康クイズに挑戦した住民は約 180 名であった。子供用のクイズが最も多く選択された。健康クイズに挑戦してもらったあとに、教員が正しい回答と解説を行い、本人の知識や生活状況を確認しながら、必要な保健指導を実施した。健康クイズ挑戦者には粗品を提供することで、集客を図った。また、希望者には保健大学のパンフレットを配布し、本学を知ってもらう機会とした。

## 4. 考察

本事業は、鶴田町民に対する健康保持増進のための専門知識の提供（健康知識の普及啓発）を行った。本事業では鶴田町と大学の相互に効果があった。大学と連携することでの鶴田町のメリットとしては、地域住民に対する学習機会の提供があげられる。町民約 180 人が健康クイズに挑戦することで、楽しみながら正しい知識を得る機会となり、健康知識の普及啓発および健康に対する興味関心の涵養に一定の効果があったといえる。本学の所有する専門知識や技術を提供することで鶴田町町民の健康増進につながる効果が期待できると考えられた。また、鶴田町民にとっては保健大学を知る機会となり、大学への親近感の醸成や高校生等の進学機会にも効果があるといえる。

本学のメリットとしては、学生の教育環境の向上および研究の推進があげられる。鶴田町には毎年、看護学科学生の実習受け入れを依頼しており、また、過去には共同研究も行うなど、連携体制が構築されているため、この連携体制を維持し、信頼関係を育んでいくことが、さらなる学生の教育環境の向上、研究の推進に効果があるといえる。また、健康まつりへの出展は鶴田町の本学に対するニーズであり、地域のニーズを踏まえた支援を行うことにより地域の発展に貢献していくことが、本学の果たす地域貢献の一つとして重要であると考えられた。